

近代日本においてリトミックを広めた人たち

【**小林 宗作**（こばやし そうさく）】 1893 年（明治 26 年）～1963 年（昭和 38 年）

日本における音楽教育・ピアノ教育・総合リズム教育をひらいた人物です。

群馬県出身。東京音楽学校乙種師範科（現・東京芸術大学音楽学部）卒。

大正自由教育運動の中で、就学前・初等教育の段階にある子供たちに、より自由で芸術的な音楽教育を受けさせることを志向し、小学校教員を務める傍ら、二度のヨーロッパ留学で幼児教育・音楽リズムと造形リズムの関係・音楽と体操の結合について研究し、成果を日本の教育界に紹介しました。

1937 年より、自分の理想をもとに、リトミックを教育基盤に置いた学校として幼小一貫校のトモエ学園を設立し運営しましたが、東京大空襲で校舎が焼失し、小学校は廃止されました。戦後は残された幼稚園の経営と、国立音楽大学での初等教員養成、附属学校の整備に力を注ぎました。

（教え子）

井上園子 野辺地瓜丸 黒柳徹子 山内泰二 大栄国雄 池内淳子 津島恵子 美輪明宏
他

【**板野平**（いたの やすし）】 リトミック研究センター顧問

1928（昭 2 年）～2009（平成 21 年）現 福山市新市町出身。板野の恩師である太田司朗（おおた しょう）は、1925 年から 1930 年頃、広島で小林宗作のリトミック講習を受け、すでに中学校の教職に就いていた板野にリトミック留学を強く勧めます。

板野は太田の推薦を受けニューヨーク・ダルクローズ音楽学校へ留学、1956 年に同校を卒業し、帰国後 国立音楽大学に着任します。その後 1962 年にリトミックを専門的に学ぶ、教育音楽学科第 II 類を立ち上げ、リトミック教育の普及に尽力しました。

【**岩崎光弘**（いわさき みつひろ）】 リトミック研究センター初代会長

1944 年（昭和 19 年）～2019 年（平成 31 年） リトミック研究センターの創始者である、岩崎光弘は 西洋の教育であるリトミックを我が国の子どもたちに広めるべく 日本の教育環境や言語文化にあったリトミック指導法の研究と開発また、その指導者の育成に尽力しました。

（略歴）

国立音楽大学教育音楽学科第 II 類を専攻、後に国立音楽大学名誉教授となる板野平教授（1928～2009）に師事し、リトミックの指導理念に感銘を受けました。リトミック中心の音楽教育を目指し、1970 年にリトミック音楽学院を設立。その後、1976 年、1989 年の 2 度にわたりヨーロッパでのリトミック教育の現状視察を行い、リトミックのさらなる普及の必要性を実感しました。1988 年に NPO 法人「リトミック研究センター」を創設し、2013 年 6 月まで初代会長を務めました。